«Le Petit Prince» に隠された数字の謎

横井　雅明

0.

Antoine de Saint-Exupéry の «*Le Petit Prince*» には，隠された数字のメッセージが多くあることが知られている。檜垣（1999）では，「3本のバオバブ」，「バラの4つのトゲ」，「日没の回数」についての分析が見られる。しかし，«*Le Petit Prince*» には，より重要な数字が隠されていると思われる。本稿の目的は，この秘められた数字のメッセージを解明することである。

1.

«*Le Petit Prince*» 第1章は次のような文で始まる。

(1) Lorsque j'avais six ans j'ai vu, une fois, une magnifique image, dans un livre sur la forêt vierge qui s'appelait Histoires vévues. [1)]

そして，第2章は次のような文で始まる。

(2) J'ai ainsi vécu seul, sans personne avec qui parler véritablement, jusqu'à une panne dans le désert du Sahara, il y a six ans. [2)]

1）Saint-Exupéry（1999）p.235. 下線筆者，以下同。
2）*Ibid.*, p.237.

さらに最終章である27章は以下のような文で始まる。

(3) Et maintenant bien sûr, ça fait six ans déjà...[3)]

これらを見ると，数字の「6」が重要なキーワードとなっていることは明白である。すなわち，語り手の「私」が原始林の本の中で素晴らしい絵を見て，自分でもイラストを描いてみたのは「6」歳の時であり，「私」が飛行機のエンジンの故障のためにサハラ砂漠に不時着したのも，今から「6」年前のことである。

さらに，王子が，自分の星を後にし，地球にやって来る前に，6つの星めぐりをしたというところからも，6という数字が大きな意味をもっているのは明らかである。

(4) 第1の星：王様が住んでいる星
第2の星：うぬぼれ男が住んでいる星
第3の星：呑み助が住んでいる星
第4の星：実業家が住んでいる星
第5の星：点燈夫が住んでいる星
第6の星：地理学者が住んでいる星

しかしながら，王子は「第7番目」の星として，地球に降り立つ。この7という数字がより重要な意味をもっているように思われる。第2節において，そのことを考察していきたい。

2.

語り手であるパイロットの「私」は，6歳の時に原始林についての本

3) *Ibid.*, p.317.

の中で，素晴らしい絵を見たのは，第１節で述べた通りである。しかしながら，この絵を見て，ジャングルの中での生活を想像して，パイロット自身が描いてみた「蛇に飲み込まれこなされつつある象の絵」は，大人たちによってことごとく，否定されてしまう。

(5) Les grandes personnes m'ont conseillé de laisser de côté les dessins de serpents boas ouverts ou fermés, et de m'intéresser plutôt à la géographie, à l'histoire, au calcul et à la grammaire. C'est ainsi que j'ai abandonné, à l'âge de six ans, une magnifique carrière de peintre. [4)]

「６才の時に絵描きという素晴らしい職業を断念した」とある。さらに，その少し後で，次のように続く。

(6) J'ai ainsi eu, au cours de ma vie, des tas de contacts avec des tas de gens sérieux. J'ai beaucoup vécu chez les grandes personnes. Je les ai vues de très près. Ça n'a pas trop amélioré mon opinion.

Quand j'en rencontrais une qui me paraissait un peu lucide, je faisais l'expérience sur elle de mon dessin numéro I que j'ai toujours conservé. Je voulais savoir si elle était vraiment compréhensive. Mais toujours elle me répondait : « C'est un chapeau. » Alors je ne lui parlais ni de serpents boas, ni de forêts vierges, ni d'étoiles. Je me mettais à sa portée. [5)]

すなわち，６歳で自分の描いた絵が大人たちによって否定された後，多くの「真面目な（sérieux)」人たちとの多くの接触があったのは７歳以降のことであり，７歳以降は多くの大人たちの中で暮らしてきており

4）*Ibid.*, p.236.
5）*Ibid.*, pp.236-237.

(J'ai beaucoup vécu)，しかしながら子供心は片隅に持ちながらも，止むなく大人たちと話しを合わせざるをえなかった（Je me mettais à sa portée.）事情が，ここには表現されている。本当は，子どもの心をもつ（compréhensive）大人を見い出したいという気持ちをもちつつ，である。この，「6歳までの私」と「7歳以降の私」の変化は大きなものである。

さらに(2)に引用したように，パイロットである「私」が王子と出会ったのは6年前のことである。「私」は王子と出会い，王子と会話をかわすことによって，徐々に子どもの頃の心を取り戻していく。すなわち，7年以上前の「私」と6年前以降の「私」には，大きな変化が見られるのである。

この7という数字は，暦の1週間を象徴しているのではないかと考える。すなわち，6つの星めぐりで言うと，王子の星を仮に日曜日とすると，王様の星は月曜日，うぬぼれ屋の星は火曜日，というふうに螺旋状に巡っていき，7番目の星は再び日曜日に戻る。すなわち，王子の星の真下にある地球に降り立つということになる。暦の上では1週間は再び元に戻るということを意味する。しかし，平面的な動きとしては元に戻るとしても，そこには時間という縦軸が関わるため，王子の星の真下に地球があり，そこに降り立つという位置関係になる。

さらに，6つ目の地理学者の星を，パイロットの6歳と合わせて考えると，7つ目の星：地球で，大人たちの世界に入っていったとも，解釈できる。6歳の時に，「地理とか，歴史とか，算数とか，文法にむしろ興味を持ちなさい」と言われたことと，4番目の星で，計算ばかりしているビジネスマンをばかにしながらも，6番目の星の地理学者の勧めを聞いて地球にやって来る，ということは，もちろん，偶然の一致ではない。

このように，6から7へと移行することに，“*Le Petit Prince*”では大きな意義が見いだせる。

3.

次に，*«Le Petit Prince»* 全体の章構成を見てみる。27 章からなる本作品は以下のような流れになっている。

(7) (献辞)

第 1 章：6 歳の時のボアの絵，絵描きをあきらめた

第 2 章：砂漠に不時着，王子との出会い，ひつじの絵

第 3 章：砂漠にて　王子はどこから来たのか

第 4 章：　〃　　王子の星，数字しか信じない大人たち

第 5 章：　〃　　（3 日目）バオバブの話，ひつじを欲しがったわけ

第 6 章：　〃　　（4 日目）日の入りを 44 回見た話

第 7 章：　〃　　（5 日目）バラのとげは何の役に立つか

第 8 章：　　王子とバラの出会いのときの話

第 9 章：　　王子の出発

第 10 章：第 1 の星 王様

第 11 章：第 2 の星 うぬぼれ男

第 12 章：第 3 の星 呑み助

第 13 章：第 4 の星 実業家

第 14 章：第 5 の星 点燈夫

第 15 章：第 6 の星 地理学者

第 16 章：第 7 の星 地球へ

第 17 章：地球で 砂漠に到着，へびとの出会い

第 18 章：　〃　砂漠で一輪の花

第 19 章：　〃　高い山の上

第 20 章：　〃　バラ園

第 21 章：　〃　キツネとの出会い，かけがえのないバラ

第22章：　〃　転轍手
第23章：　〃　のどの乾きが治る薬を売る商人
第24章：砂漠にて（8日目）水がなくなり井戸を探し始める
第25章：　〃　井戸，王子が地球に降りて1年目の前日
第26章：　〃　　〃，へびと再会，星に帰る日
第27章：操縦士の回想
（おわりに：読者へのメッセージ）

まず，献辞と第1章は，語り手であるパイロットの説明の部分である。第2章において，説明から徐々に物語の世界へと入っていく。このことはDiscoursの時制である複合過去の使用からRécitの単純過去使用への移行という現象からも分かる[6]。第3章と第4章には砂漠での何日目の出来事かは明示されていないが，第5章には次のように明瞭に3日目のことであることが示されている。

(8) Chaque jour j'apprenais quelque chose sur la planète, sur le départ, sur le voyage. Ça venait tout doucement, au hasard des réflexions. C'est ainsi que, le troisième jour, je connus le drame des baobabs.[7]

第6章，第7章の始まりは，それぞれ，以下のようである。

(9) Ah! petit prince, j'ai compris, peu à peu, ainsi, ta petite vie mélancolique. Tu n'avais eu longtemps pour distraction que la douceur des couchers de soleil. J'ai appris ce détail nouveau, le quatrième jour au matin, quand tu m'as dit: (...)[8]

6）横井（2009）.
7）Saint-Exupéry（1999）p.247.
8）*Ibid.*, p.252.

(10) Le cinquième jour, toujours grâce au mouton, ce secret de la vie du petit prince me fut révélé. [9]

第8章, 第9章には,「それは〜日目のことである」という表現はないが, 第24章で, 再び王子とパイロットの砂漠でのやりとりになったところで,「8日目のことである」という表現が見られる。

(11) Nous en étions au huitième jour de ma panne dans le désert, et j'avais écouté l'histoire du marchand en buvant la dernière goutte de ma provision d'eau: (...)[10]

以上のことから, 第3章から第9章までの7つの章が, 王子とパイロットの砂漠での7日間を表現していることがわかる。すなわち, 7章構成になっているのである。

この7日間と8日目以降をなぜ分ける必要があったのかと言うと, パイロットは6歳の時に蛇に飲み込まれた象の絵を否定されてから, 徐々に大人の世界に入っていったのは先述した通りだが, 砂漠での7日間を経て, 8日目以降には, 徐々に王子の心が理解できるようになっていった, という変化が見られるからである。このことは, 第24章の以下の引用から分かる。

(12) (...) Il s'assit. Je m'assis auprès de lui. Et, après un silence, il dit encore: « Les étoiles sont belles, à cause d'une fleur que l'on ne voit pas... »

Je répondis « bien sûr » et je regardai, sans parler, les plis du sable sous la lune.

« Le désert est beau », ajouta-t-il...

9) *Ibid.*, p.253.
10) *Ibid.*, p.302.

Et c'était vrai. (...)

« Ce qui embellit le désert, dit le petit prince, c'est qu'il cache un puits quelque part... » (...)

« Oui, dis-je au petit prince, qu'il s'agisse de la maison, des étoiles ou du désert, ce qui fait leur beauté est invisible! [11)]

「星が美しいのは，目には見えない花があるおかげなんだ」と言う王子に，「その通り」と答えるパイロット。「砂漠はきれいだね」と言う王子の言葉に共感するパイロット。「砂漠が美しいのは，どこかに井戸を隠しもっているからなんだ」と言う王子に，「家でも星でも砂漠でも，美しさを生み出しているものは目には見えないんだ」と答えるパイロット。第7章で，王子に「君は大人みたいだな」と言われた時とは大きく変化している。

7章構成の2つ目は，第10章から第16章の星めぐりの部分である。先に述べたように，王子は地球にやって来る前に6つの星を訪れている。そして，地球は7つ目の星ということである。

7章構成の3つ目は，第17章から第23章の，「地球上での出来事ではあるが，まだパイロットとは出会っていない部分」である。ここで出会うのは，蛇，一輪の花，高い山の頂上，バラの咲く庭園，キツネ，転轍手，のどの乾きが治るという薬を売る商人，であり，7つの物語構成になっている。これは，「神の使い（人間を一瞬にして土に帰らせることができる蛇）」－「自然・植物」－「動物」－「人間」という順序になっていて，超人間的な存在である王子が徐々にパイロットに近づいてきた過程を表していると考えられる。

第24章から第26章は，砂漠での王子とパイロットのやりとりの部分であるが，パイロットは王子の気持ちが理解できるようになってきている（= apprivoiser されている）という点で，第3章から第9章とは異なっ

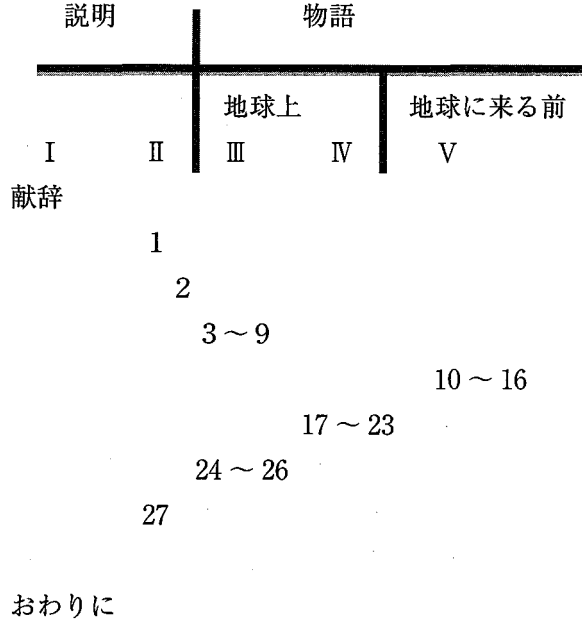
11) *Ibid.*, p.303.

ている。

そして，第27章では再びパイロットが語り手となって，読者への語りかけをしている部分である。

以上を図式化すると，以下のようになる。

(13)



まず献辞は物語に入る前の作者サン＝テグジュペリからのメッセージである。第1章はパイロットの回想であるが，まだ王子の物語には入っていない。第2章から少しずつ物語の世界に入っていく。そしてそこから9章まで，すなわちⅢの部分がパイロットと王子の砂漠の上でのやりとりである。10章から16章は王子が地球にやってくる前の話，17章から23章は王子が地球にやってきてからの話であるが，まだパイロットとは出会っていない時の物語である。24章から26章は9章の続きで，砂漠での王子とパイロットの会話。そして第27章は第1章と同じ操縦

士の説明の部分である。そして，おわりにのメッセージの部分はパイロットのメッセージとも作者サン＝テグジュペリのメッセージともとれる部分であるが，おそらくそこでは，パイロットと作者が一体化しているのであろう。

以上から明らかなように，この作品は3つの7章構成によって作られている。このような7章構成の7という数字であるが，これは暦の1週間を表すのではないかと先に述べた。星の世界ではこのような暦は非常に大切である。と言うのも，王子が地球に降り立ってから，ちょうど1年で王子の星が再び地球の真上にやってくる時に，王子は旅立つということになっている。再び同じところに帰るけれども，心は大きく変化しているのである。

4.

サン＝テグジュペリが *«Le Petit Prince»* で最も訴えたかったことの1つが，数字しか信じない大人の拒否であったことは明らかである。しかしながら，この作品を読み解くに当たり，このような隠された数字の秘密を見いだすのも1つの意義があると思われる。作品全体の章構成を見れば，7章構成が隠されていることは明らかだからである。1週間で元いた場所へ帰るけれども，時間軸に沿って螺旋状に動けば，それは元いた場所とは異なっている。「6歳の子どもの私」とそれ以降の「大人の私」との間の変化，「王子と出会う6年前以降の私」と「王子と出会う以前の（7年以上前の）私」との間の変化，というものがこの7という数字に隠されているように思えてならない。

参考文献

[Texte] Antoine de Saint-Exupéry (1999). Le Petit Prince, in *Œuvres complètes II.*, Gallimard.

Drewermann, Eugen (1992) *L'Essentiel est invisible,* Cerf.

Monin, Yves (1975) *L'Ésotérisme du petit prince,* Nizet.

塚崎 幹夫（1982）『星の王子さまの世界』，中公新書．

檜垣 嗣子（1999）「『星の王子さま』：暗号的解釈に関する考察 － 数字をめぐって」，『明の星女子短期大学紀要』17号．

横井 雅明（2009）「『星の王子さま』に見られる過去時称の切り替えに関する一考察」，『アルテスリベラレス』第85号．